

## 小児科

### 研修指導者名

河野 嘉文

### メッセージ

新しい専門医制度の基幹病院として小児科専門医養成プログラムを組んでいます。県内すべての小児医療機関と連携するプログラムで、広い領域を分担して補完しあえる専門医を養成します。

#### 1. サブスペシャリティが充実しています

血液・腫瘍（九州の中心施設、造血幹細胞移植認定施設、全国規模の治療プロトコールの作成）膠原病（日本でトップ施設で治験を多数行い、県外からの患者・研修医を受け入れている）、循環器（先天性心疾患の術前術後管理を年100例以上行い、また川崎病研究の中心施設である）、感染症診療（県内、院内感染対策のリーダー的役割をしている）、救急医療・集中治療（専門医として勤務している）、今後さらに力を入れていく分野として、新生児医療、神経・療育、内分泌、腎臓、アレルギーなどがあります。

#### 2. 小児科医を大切にします

基本的に個人の犠牲に頼るシステムは廃止してきました。例えば、1人で勤務する病院をなくし、複数人勤務で交替できるシステムを構築しました。大学病院では主治医制を廃止し、ユニット制（チーム医療）へ変更しました。これにより、研修医は様々な専門分野から指導を受けることができます。当直翌日の勤務はたいへんなので、勤務過剰にならない配慮をしています。具体的には、急病センター等で一晩中働く場合には、翌日の午後は休みとし、ユニットで補完しています。休暇をとることを推奨しており、大学病院では、夏期研修の1週間とリフレッシュ研修としての1週間の合計2週間の休暇をとることができます。

#### 3. 育児をする医師への配慮

男女にかかわらず、育児が研修の妨げとならないように配慮しています。例えば、大学病院では、育児をしながら研修する場合には、病棟医として昼間のみの勤務として、当直を免除しています。育児を行いながら一般外来を研修したい場合は、今村病院（鹿児島市）、鹿児島こども病院（伊集院町）などで、昼間のみの研修を行います。勤務形態・条件に関する各病院と相談・交渉は、医局が行います。

#### 4. 出身大学にとらわれない

出身大学や出身地にこだわらず、広く研修医を受け入れています。最近では、鹿児島大学、佐賀大学、大分大学、高知大学、熊本大学、長崎大学、福岡大学、宮崎大学、山口大学、琉球大学、神戸大学、徳島大学、鳥取大学、川崎医科大学、自治医科大学、島根大学、愛知医科大学、久留米大学など出身者を後期研修医と受け入れました。

#### 5. 研究を推奨しています

医師としての技量は、臨床の経験や技術だけでなく、科学的・探究的な見方・とらえ方が必要です。後期研修期間も含めて、自ら研究を行うことを勧めています。基礎的な研究、トランスレーショナル研究を指導します。学会発表、論文作成、研究費の申請も指導します。

### 研修目標

小児科学一般のプライマリーケアの習得、

小児救急・新生児学を含む各専門分野における診察方法と検査手技の理解と習得

※小児科HP参照



### 研修可能技能

血管確保、気道確保、人工呼吸管理法、超音波検査法、心臓カテーテル検査、腎生検、心電図検査  
骨髄穿刺・生検、髄腔内注射、細菌学的検査、脳波検査、画像判読などの方法

### 取得できる専門医資格技能

- ・日本小児科学会 ・日本リウマチ学会 ・日本感染症学会 ・日本内分泌学会 ・日本血液学会
- ・日本小児血液・がん学会 ・日本造血細胞移植学会 ・日本小児循環器学会
- ・日本小児神経学会の各専門医

### 特徴

個人の能力と指向に合わせたフレキシブルな研修プログラムを受けることができる。  
サブスペシャリティが充実しているので、あらゆる分野について研修できる。  
基礎的研究、トランスレーショナル研究をでき、学会発表・論文作成ができるようになる。

### 研修参加条件

卒後臨床研修終了者

### 研修施設

記載のように役割分担をした病院間をローテーションし、3年間で専門医試験を受験できる知識と技量を身につける。

鹿児島大学病院（3次医療）、鹿児島市立病院（2次・3次医療および新生児医療）、国立病院機構南九州病院（小児神経疾患）、国立病院機構鹿児島医療センター（小児循環器疾患）、鹿屋医療センター（地域中核病院）、鹿児島県立大島病院（離島中核病院、新生児医療）、済生会川内病院（地域中核病院）、今給黎総合病院（小児内分泌疾患）、やまびこ医療福祉センター（療育）等

### 研修期間

3年間

### 研修プログラム

#### ■3年目

鹿児島市周辺の指導医が多い病院を6か月毎にローテーション

鹿児島大学病院 3次医療中心

鹿児島市立病院 2・3次医療（救命救急センター（小児救急拠点病院））

鹿児島こども病院 2次医療（一般的な疾病の入院治療）

#### ■4年目～5年目

種々のタイプの患児に対し、適切に外来（1次医療）ができるようになることを目標とする

県立大島病院、県民健康プラザ鹿屋医療センター、済生会川内病院、県立北薩病院  
出水医療センター、国立病院機構指宿病院、田上病院など



### 研修プログラム

■6年目

小児科専門医受験

■7年目以降

専門分野を意識した研修例

神経疾患（南九州病院）、内分泌疾患（今給黎病院）、循環器疾患（鹿児島医療センター）、腎臓疾患（南九州病院）、NICU（市立病院総合周産期母子医療センター）

膠原病・集中治療・血液腫瘍・感染症（大学病院および全国の先端施設へ）

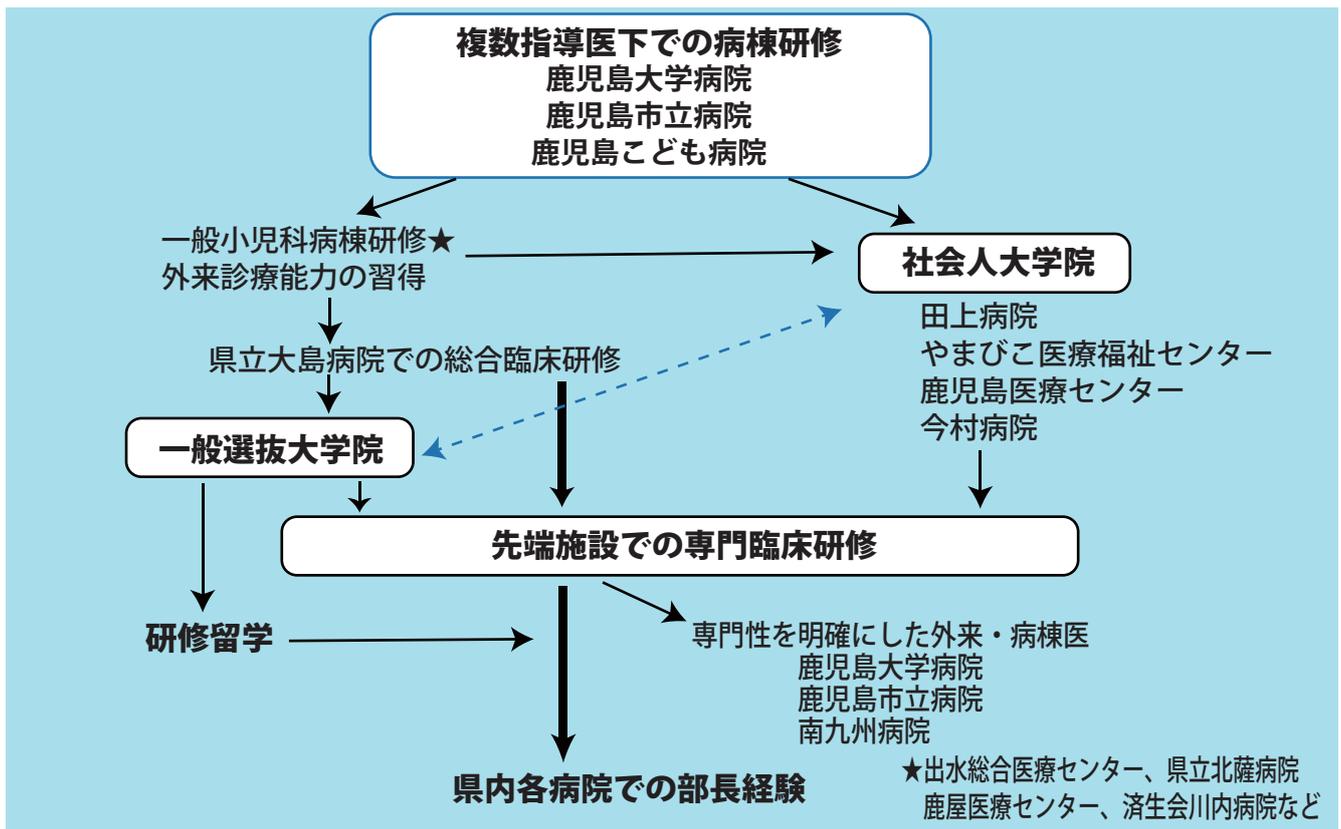
■10年目以降

小児科部長の経験

県立大島病院、田上病院、鹿屋医療センター、今給黎総合病院、県立薩南病院、県立北薩病院、出水市立病院など

■大学院

社会人大学院と一般選抜大学院の2種類があるが、各自の適性に応じて勧めている。後期研修3年間終了後の入学が基本であるが、研究希望の医員には適宜対応する。



### 研修病院の症例実績

	鹿児島大学病院	鹿児島市立病院	鹿児島こども病院	済生会川内病院	南九州病院	鹿屋医療センター	県立北薩病院	県立大島病院
延べ入院患者数	12507	9926	4376	4323	5571	4095	1692	7322
延べ外来患者数	8242	8990	43180	13695	10080	5088	14407	10343
時間外受診数	50	644	3513	3157	246	452	1412	1023

## 現在研修中の医師数

	大学内(うち大学院生の数)		大学外
卒後3年目	4	(0)	0
卒後4年目	1	(0)	4
卒後5年目	0	(0)	3

## プログラムの募集人員及び選考

【募集人員】 6名/年

## 研修と大学院の関係

卒業後5年目以後に、希望者は大学院に入学して、研究を行なうことができる。大学院4年間のうち最大2年間を臨床研修に当てることができる。留学は、国内・海外とも、基本的には大学院終了後とするが、留学先での研究期間を大学院の期間に当てることができる。国内・海外留学は、積極的に勧めている。

## 処 遇

大学病院の医員としての待遇

## 研修終了後の進路

希望する専門グループに属し、大学または研修指定病院での指導医として勤務する。

## 指導医・専門医

日本小児科学会専門医：61人、日本血液学会指導医：5人、日本感染症学会指導医：1人、日本リウマチ学会指導医：1人、日本内分泌医学会指導医：1人、日本小児循環器学会指導医：10人、日本小児血液・がん学会指導医：4人、日本循環器学会専門医：9人、日本小児血液・がん学会専門医：5人、日本リウマチ学会専門医：6人、日本血液学会専門医：7人、日本感染症学会専門医：2人、日本内分泌学会専門医：2人、日本アレルギー学会専門医：1人、日本腎臓病学会専門医：1人、日本造血細胞移植学会専門医：5人

## プログラムに関する問い合わせ窓口

鹿児島大学病院 小児科

〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号

電話：099-275-5354

FAX：099-265-7196

E-mail：ttanabe@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp(田邊)

